



PS



※ Adobe CC 2015～2018 頃の画面をもとに作成しています。最新版とは一部 UI が異なる場合があります

プロのヒント

Photoshop STEP1-1

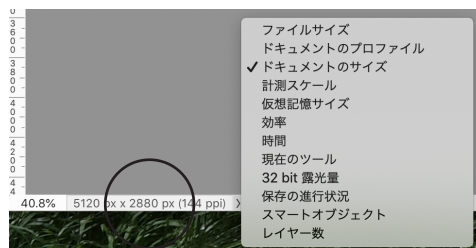
Tip1 各種パネル

◆ステータスバー

画像の倍率、ファイルサイズ、使用中のツール名、ファイルの情報等を表示します。

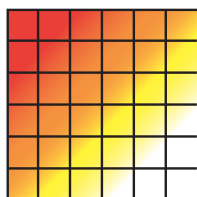
◆パネルオプションメニュー

各パネルにはパネル右上にパネルオプションを表示させるボタンがあります。パネルの下部にボタンがあるパネルは、そのボタンをクリックすることでも各種の機能を実行します。パネルオプションメニューの内容と重複するボタンもあります。



Tip2 画像解像度について

解像度は「ppi(pixel inch)」という単位が用いられ、1インチ四方の縦・横列をそれぞれいくつのピクセルが並んでいるかで表現します。例えば、1インチ四方の縦・横列をそれぞれ5個のピクセルが並んでいる場合には5ppiとなり、10個のピクセルが並んでいる場合には10ppiとなります。（Photoshopでは、モニタ上の画像を拡大していくと四角いタイルのものが「ピクセル」です）



◆解像度が高い場合

入力解像度を上げることによって、ピクセルの密度が高くなり、滑らかな画像を得ることができます。ピクセル密度が高くなると情報量も多くなるため、データ容量は大きくなります。



◆解像度が低い場合

解像度が高い場合に比べると、ピクセルの密度が低くなるのでジャギーの目立つ粗い画像になります。情報量も少ないため、データ容量は小さくなります。

印刷物=350dpi(ppi) データ量は重い
Web= 72dpi(ppi) データ量は軽い

◆印刷に必要な画像解像度

印刷のための画像を扱う際は解像度に注意する必要があります。上記のように解像度は高ければ高いほどよい、という訳ではありません。印刷される画像の質は解像度だけではなく出力線数(スクリーン線数)も関係しているからです。一般に印刷に必要な画像解像度は出力線数の2倍といわれています。これは印刷の網点1つを作るのに画像のピクセル4つ分を使うことを意味しています。

◆出力線数について

適正な出力線数は、最終的に使用する紙質や用途によって変わるため、必ず印刷業者と打合せを行なった上で設定します。

※通常のオフセット印刷では175lpiが一般的です。

<線数の目安>

- 新聞などの粗い印刷物: 70lpi~100lpi
- 雑誌などの普通の印刷物: 150lpi~175lpi
- 写真等の細かい印刷物: 200lpi以上



Tip3 デジタルカメラ画像を印刷に使う場合

デジタルカメラで撮影した画像を印刷で使用する場合、いくつかの注意点が必要です。

●ファイル形式 ●モード(色指定形式) ●解像度

●ファイル形式

ファイル形式は印刷用では「Photoshop」形式や「Photoshop EPS」形式などをよく使用しますが、デジタルカメラの場合、ほとんどのカメラが「JPEG」形式を採用しています。印刷用データの場合はPhotoshop形式への別名保存が必要です。

●モード(色指定形式)

モードとはデータの色指定形式をさします。デジタルカメラの場合すべての画像がRGBモードで保存されます。印刷用データはCMYKモードにする必要があるため、Photoshop上でモード変換を行います。

●解像度

多くのデジタルカメラのデータは、Photoshopで開くと72ppiの解像度で認識されます(ただし、カメラの画素数によって差があります)。通常のオフセット印刷の場合、350ppi程度の解像度が必要ですが、デジタルカメラはスキャナのようにあらかじめ解像度を設定して撮影することはできないため、Photoshopで適切な解像度に設定する必要があります。

◆画素数とピクセル数の関係

デジタルカメラの「画素数」は、Photoshopでは「総ピクセル数」と同様です。画像を表すためにいくつのピクセルを使っているかによって、画像そのものの情報量を表しています。例えば、1000万画素クラスのデジタルカメラの場合、ピクセル数は「幅3648ピクセル×高さ2736ピクセル=998万ピクセル(約1000万ピクセル) =1000万画素」となります。



プロのヒント

Photoshop STEP2-1

Tip4 色調補正について

「色調補正」とは、画像のカラーや色調(明るさ、暗さ、コントラスト)をより美しくするために拡張、修復、補正することです。また、画像をより美しく表現する機能目的以外にも、特殊効果を与える際などにも使用します。Photoshopでは色調を補正する機能として2通りの方法があります。

- ①「イメージ」メニュー→「色調補正」の中のサブコマンドを使用する(1回のみ有効)
- ②「レイヤー」メニュー→「新規調整レイヤー」の中のサブコマンドを使用する(何度も修正可)

①「イメージ」メニューを使用した色調補正

「イメージ」メニュー→「色調補正」の中のサブコマンドを使用すると、選択した画像に直接補正を適用します。(レイヤーがある場合、選択したレイヤーのみに補正を適用します) 繰り返し調整することができません。

②調整レイヤーを使用した色調補正

調整レイヤーとは色調補正の1つで、レイヤーを通して下にあるレイヤーすべてに補正をかける機能です。レイヤーを通して補正を行うため、画像を統合するまでは画像に直接補正が適用されていないことになり、何度も補正を繰り返すことができます。調整レイヤーは「レイヤー」メニューから、もしくは色調補正パネルから行うことができ、色調補正パネルから実行した設定は属性パネルで行います。色調補正パネルの表示非表示は「ウィンドウ」メニュー→「色調補正」を選択します。

サブコマンド	明るさ調整	色調整
明るさ・コントラスト	○	
レベル補正	○	○
トーンカーブ	○	○
露光量	○	
自然な彩度		○
色相、彩度		○
カラーバランス		○
白黒	○	
レンズフィルタ		○
チャンネルミキサー		○
カラーLOOKアップ [CS6]		○
階調の反転	特殊効果	
ポスタリゼーション		
2階調化		
グラデーションマップ		
特定色域の選択		○
シャドウ・ハイライト	○	
HDRトーン [CS5]	○	○
パリエーション[CS4 まで]	○	○
彩度を下げる		
カラーの適用	○	○
色の置き換え		○
平均化 (イコライズ)	特殊効果	

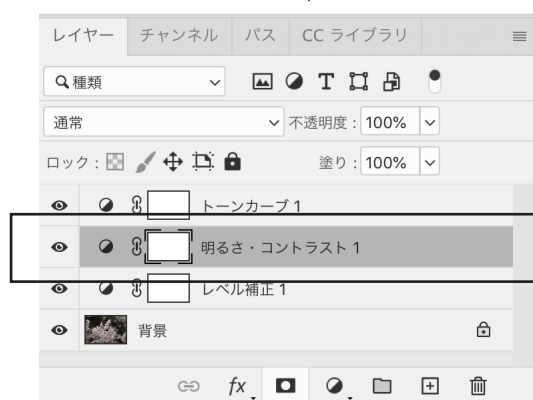
<色調補正パネル>



<属性パネル>



<レイヤーパネル>



※色調補正を行う際に、選択範囲がある場合には設定した選択範囲に補正はかかります。

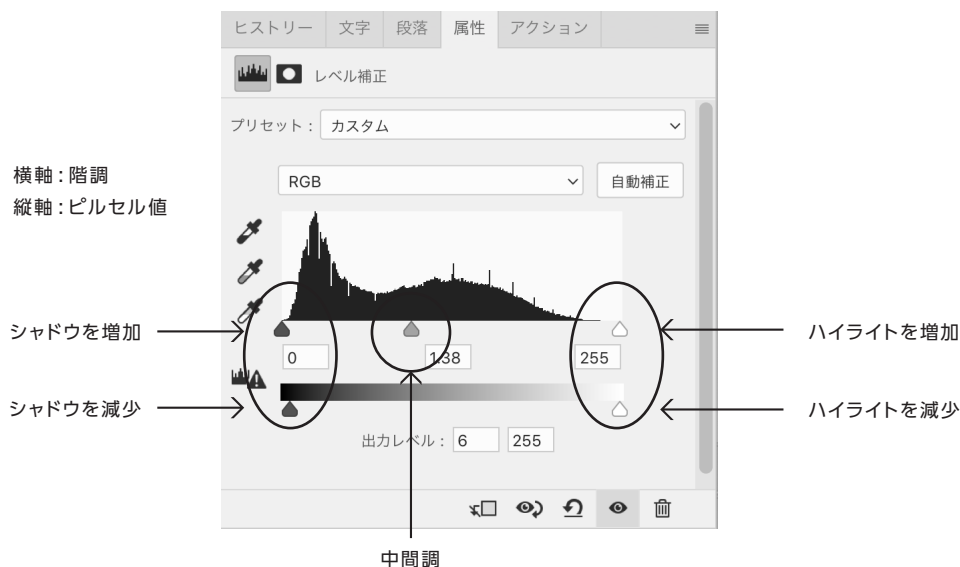
選択範囲を設定しない場合には、アクティブになっている画像全体に補正がかかります。

プロのヒント

Photoshop STEP2-2

Tip5 レベル補正

画像の明るさとコントラストを調整するための機能です。入力レベルの▲ (△) を内側にドラッグすることでコントラストを強め、出力レベルの▲ (△) を内側にドラッグすることでコントラストを弱めることができます。



Tip6 トーンカーブ

画像の明るさとコントラストを調整するための機能です。レベル補正が3つのポイントの調整に対して、トーンカーブは14のポイントを設定することができ、より細かな調整をすることができます。補正を加える部分以外への影響を最小限に押さえることができ、レベル補正より精度の高い調整を行うことができます。

トーンカーブの表示オプション

全チャンネル表示 : 合成チャンネルにカラーチャンネルのトーンカーブを重ねて表示

ヒストグラム: パックにヒストグラムを表示

基準線: 基準となるトーンカーブ値を示す対角線を表示

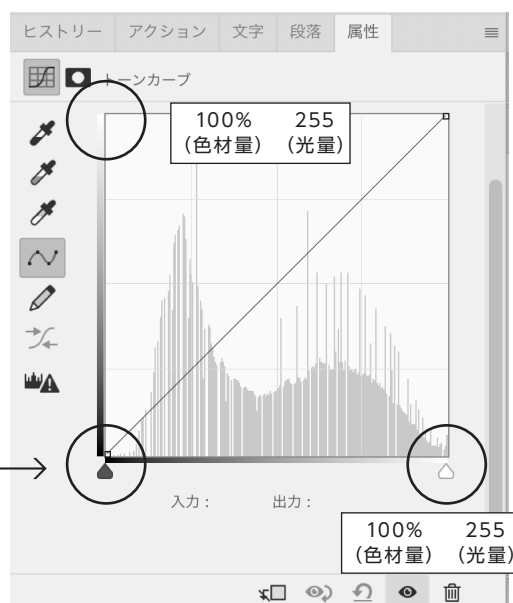
交差線: ポイントを正確に配置するために交差線を表示

グリッドサイズ : 4×4マスの簡易グリッドを表示 (左)

10%きざみで詳細グリッドを表示 (右)

※option [Alt] キーを押しながらグリッドの上をクリックすることでも、グリッドサイズを切り替えることができます。

0% 0
(色材量) (光量)



プロのヒント Photoshop STEP2-3

Tip7 選択範囲メニュー

「選択範囲」メニューには、範囲選択を行う際に便利な機能が用意されています。

☐ すべてを選択	: 画像のすべての範囲を選択する。
☐ 選択を解除	: 選択範囲を解除する。
☐ 再選択	: 再度選択できる。
☐ 選択範囲を反転	: 選択範囲を逆にする。
☐ 色域指定	: 色域で選択する。
☐ 焦点領域	: 被写体にピントを合わせて撮影した写真の選択範囲を作成。
☐ 被写体を選択	: 画像の中のメインの被写体に自動的に選択範囲が設定されます。
☐ 選択とマスク	: 作成した選択範囲の境界線の半径/コントラスト/滑らかさ/ぼかし/縮小/拡大等をプレビューで確認しながら調整する。
☐ 選択範囲を変更	: 選択された境界線を変更する。
・境界線・滑らかに・拡張	: 境界線上を選択する。丸みをつける。拡張する。縮小する。
・縮小・境界をぼかす	: ぼかす。
☐ 選択範囲を拡張	: 色を基準に選択範囲を広げる。
☐ 近似色を選択	: すでに選択している箇所と同じ色調をすべて選択する。
☐ 選択範囲を変形	: 作成した選択範囲を変形する。
☐ クイックマスクモードで編集	: クイックマスクモードに切り替えて編集します。
☐ 選択範囲を読み込む	: 保存を行った選択範囲を読み込ませる。
☐ 選択範囲を保存	: 選択範囲をアルファチャンネルとして登録する。
☐ 新規3D押し出し	: 選択範囲を3Dオブジェクトに変形します。

すべてを選択	⌘ A
選択を解除	⌘ D
再選択	⇧ ⌘ D
選択範囲を反転	⇧ ⌘ I
すべてのレイヤー	⇧ ⌘ A
レイヤーの選択を解除	
レイヤーを検索	⇧ ⇧ ⌘ F
レイヤーを分離	
色域指定...	
焦点領域...	
被写体を選択	
選択とマスク...	⇧ ⌘ R
選択範囲を変更	▶
選択範囲を拡張	
近似色を選択	
選択範囲を変形	
クイックマスクモードで編集	
選択範囲を読み込む...	
選択範囲を保存...	
新規 3D 押し出し	

Tip8 選択範囲オプション (すべての選択ツールで利用できるオプション)

<既に選択範囲がある場合>

選択範囲に追加 : shiftキー+選択ツールでドラッグ(「自動選択」ツールの場合にはクリック)

現在の選択範囲から一部削除 : option [Alt] キー+選択ツールでドラッグ(自動選択ツールの場合にはクリック)

現在の選択範囲との共通範囲 : shiftキー+option[Alt]キー+選択ツールでドラッグ(「自動選択」ツールの場合にはクリック)

<選択範囲がない場合>

正方形または正円で選択: shiftキー+選択ツールでドラッグ

中心から選択 : option [Alt] キー+選択ツールでドラッグ

<選択範囲の移動/削除>

選択範囲のコピーを移動 : option [Alt] + command [Ctrl] + shiftキー+選択ツールでドラッグ

選択されている画像の削除: 「編集」メニュー→「消去」



※オプションバー にも同じ機能があります。

プロのヒント Photoshop STEP2-4

Tip9 選択とマスク

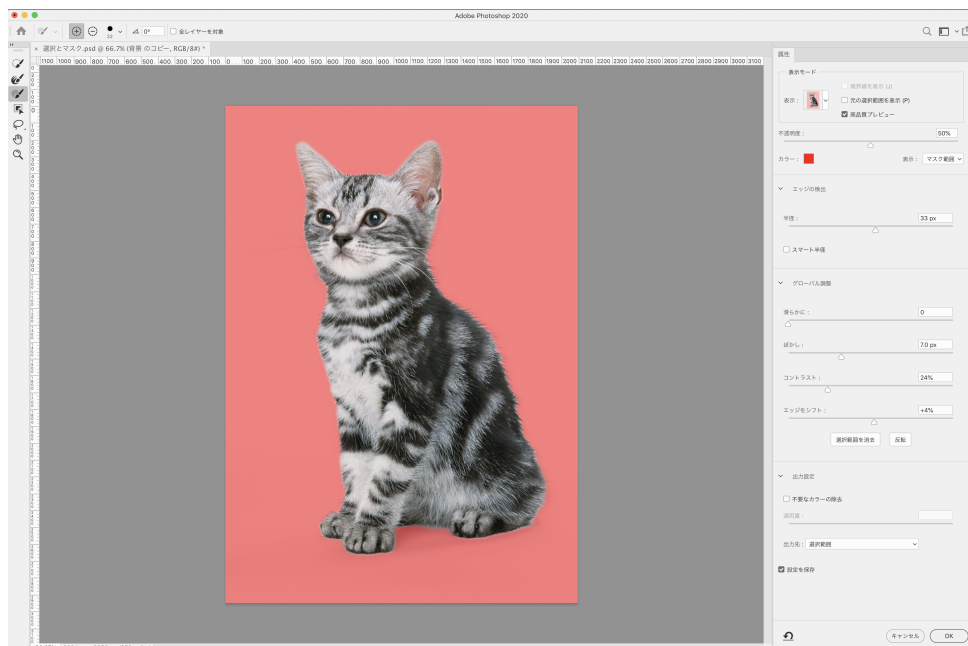
すべての選択ツールを選択している時に、オプションバーに「選択とマスク」ボタンが表示されるようになりました。作成した選択範囲を調整することができる機能で、画面上でプレビューを確認しながら調整を行うことができます。さらに選択範囲の境界線の画質が向上し、「エッジの検出」では、今まで難しかった人の髪の毛や動物の毛など複雑な境界部分を細かく調整することができます。「選択とマスク」は選択範囲が作成されていないと使用できません。

<オプションバー>



Photoshop CC 2015.5以降、「境界線を調整」は「選択とマスク」という名称になって、専用のワークスペースが開くようになりました。

<選択とマスク>



<表示モード>: 選択範囲の表示方法を変更します。

- 境界線を表示: 境界線の調整が行われる選択範囲の境界領域が表示されます。
- 元の選択範囲を表示: 比較のために元の選択範囲を表示します。

<エッジの検出>

- スマート半径: 境界領域に出現するはっきりしたエッジや滑らかなエッジの半径を自動調整します。境界線が全体的にハードまたはソフトの場合、または半径の設定と調整ブラシをより詳細に制御する場合は、このオプションの選択を解除します。
- 半径: 境界線の調整が行われる選択範囲の境界領域のサイズを指定します。境界線をシャープにするには小さな半径を使用し、境界線をソフトにするには大きな半径を使用します。

<グローバル調整>

- 滑らかに: 選択範囲の境界領域の不規則な部分(「ギザギザ」の部分)を減らし、アウトラインを滑らかにします。

- ぼかし: 選択範囲とその周りのピクセルの間をぼかします。

- コントラスト: 値を大きくすると、選択範囲の境界線に沿ったソフトなエッジが明確になります。一般的に「スマート半径」オプションと調整ツールを使用する方が効果的です。

- エッジをシフト: 負の値を設定するとソフトなエッジの境界線は内側に移動し、正の値の場合は外側に移動します。境界線を内側に移動すると、選択範囲の境界線から不要な背景を削除できます。

<出力設定>

- 不要なカラーの除去: カラーのフリンジを、完全に選択された近隣のピクセルのカラーで置き換えます。カラーの置き換えの強さは、選択範囲の境界線の柔らかさに比例します。
- 出力先: 調整された選択範囲が、現在のレイヤー上の選択範囲またはマスクになるのか、それとも新しいレイヤーまたはドキュメントを作成するのかを指定します。



Tip10 Photoshopでの画像加工(補正) 手順

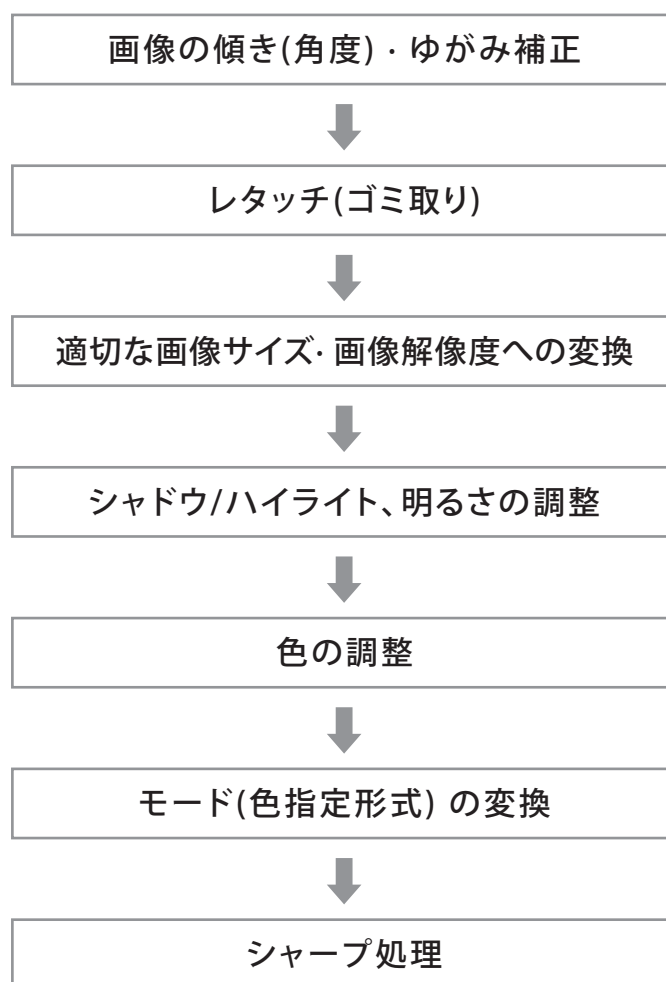
Photoshopで加工や補正を行う場合には、全体の行程を理解しておかなくてはなりません。例えば、画像を明るく補正したいといった場合、それが適正な補正であったとしても、適用した数値で明るい部分の情報は消えてしまいます。処理によって劣化の度合いは変わってきますが、データの劣化を最小限に抑えるためには、補正する部分を限定し、できるだけ少ない工程で補正を完了させることが最良の補正といえます。

加工や補正を行う前に、必ずバックアップ(別名保存)をとる。

画像編集後に間違えて元画像を上書きしてしまったときのことを考えてバックアップしておきます。デジタルカメラで撮影した写真は、いっさい手をつけずにオリジナルのまま保存しておくことが原則です。画像は少しでも編集すると、見た目にはわからない程度に画質が劣化していきます。

一般的な加工・補正の行程

画像補正の手順は、手を加える部分が画像によって異なるため、固定された手順というものはありませんが、基本的な補正の流れは以下ようになります。

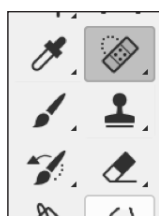
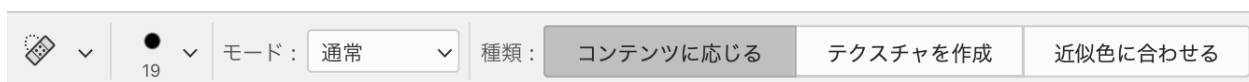


プロのヒント

Photoshop STEP3-2

Tip11 スポット修復ブラシツール

「スポット修復ブラシ」ツールは、「コピースタンプ」ツールや「修ブラシ」ツールと同様の使い方をしますが、違う点は修復する前にサンプリングする必要がない点です。画像の取り除きたい部分をクリックまたはドラッグすることで、周囲にある領域をPhotoshopが分析し、修復領域に使用する最適なピクセルを自動的にサンプリングします。また新しくオプションバーの「種類:コンテンツに応じる」が追加されました。これにより、よりリアルなレタッチを行うことができます。



ツールパネルの「スポット修復ブラシ」ツールを選択し、オプションバーで設定します。

●近似色に合わせる

ドラッグした境界の周りにあるピクセルから作成したパッチで修復します。

●テキストチャを作成

ドラッグしたすべてのピクセルから作成したテキストチャで修復します。

●コンテンツに応じる

近くの画像コンテンツを比較して選択範囲をシームレスに塗りつぶします。このとき、シャドウやオブジェクトのエッジなどの主なディテールは保持されます。

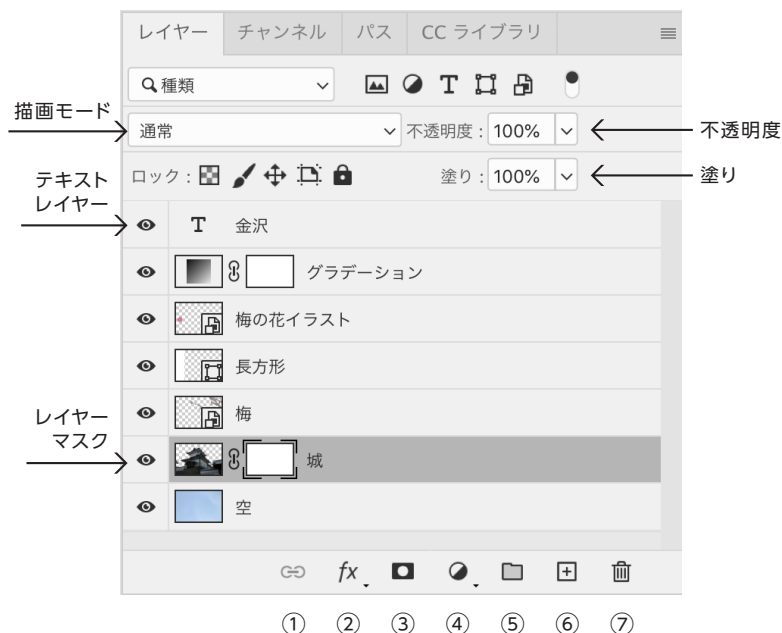
Tip12 レイヤーパネル

「レイヤー」には新規レイヤーを作成することも可能ですが、「文字入力」や「コピー&ペースト」、「ドラッグ&ドロップ」などで画像を合成した場合、レイヤーは自動的に作成されます。レイヤーはレイヤーパネルで管理し、レイヤーの作成、削除、移動などの操作を簡単に行うことができます。レイヤーパネルの表示非表示は「ウィンドウ」メニュー→「レイヤー」を選択します。

- ◆描画モード／重なったレイヤーの見え方を制御します。
- ◆不透明度／レイヤーごとの不透明度を調整します。
- ◆塗り／オブジェクトの不透明度を調整します。
- ◆テキストレイヤー／文字ツールを使うと作成されるレイヤーです。元画像に変更を加えることなく調整ができます。
- ◆レイヤーマスク／レイヤーをグレースケール画像でマスクする。

<レイヤーパネル>ボタン

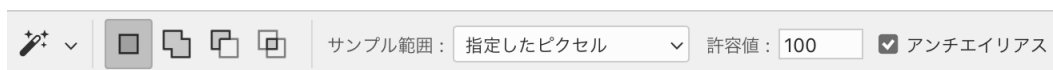
- ①レイヤーをリンク/解除
- ②レイヤースタイルを追加
- ③レイヤーマスクを追加
- ④塗りつぶしまたは調整レイヤーを新規作成
- ⑤新規レイヤーグループを作成
- ⑥新規レイヤーを作成
- ⑦レイヤーを削除



プロのヒント Photoshop STEP4-1

Tip13 アンチエイリアス機能

アンチエイリアス機能とは選択範囲の境界線にぼかしを入れるためのもので、「アンチエイリアス」にチェックが入っていると、選択範囲に1pxぼかしを設定し、合成を行う際に境界線をなじませることができます。一部の選択ツールは初期設定で必ずチェックが入っています。またオプションバーの「ぼかし」には数値を設定することもできます。



Tip14 Web用画像ファイル形式の特徴

Webページの制作では、主に、「GIF」「JPEG」「PNG」の3種類の画像フォーマット(ファイル形式)が使用されます。いずれも主要なWebブラウザで表示でき、画質を保ちつつファイルサイズを小さく抑えられる画像形式であることから、利用されるようになりました。3つの画像形式にはそれぞれ特徴があり、用途によって使い分けられています。

画像形式	保持可能な色数	圧縮方法	透明の保持	用 途
GIF 形式 (1677万色)	最大 256 色	可逆式	○	●色数の少ないイラスト ●べた塗りの多いロゴ
JPEG 形式 (.jpg)	フルカラー (1677万色)	非可逆式	×	●写真 ●階調の多いイラストやロゴ
PNG 形式 (.png)	最大 256 色 (PNG-8) フルカラー (PNG-24)	可逆式	○	●色数の少ないイラストやロゴ (PNG-8) ●写真や階調の多いイラストやロゴ (PNG-24)

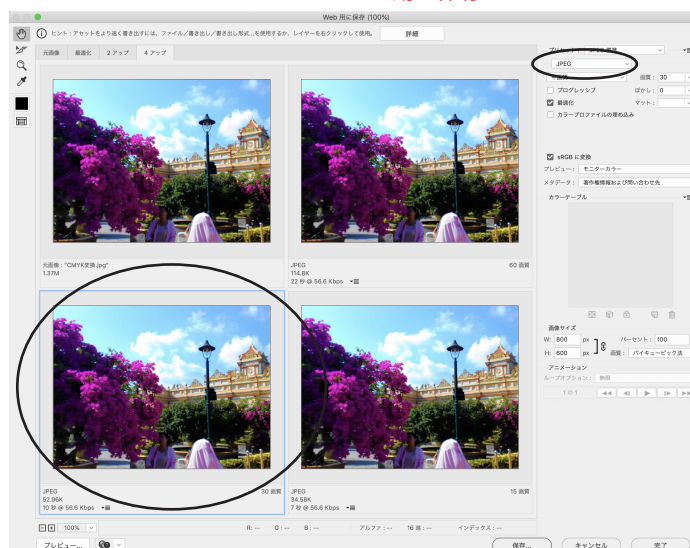
「可逆式」とは圧縮しても元に戻せる方式です。「非可逆式」とは一度圧縮すると元に戻せない方式です。

<Web用に保存ダイアログボックス>

①ファイル→書き出し→Web用に保存を選択し、ダイアログボックスが出たら、左下部のプレビューを選択し、右側から「JPEG」形式を選択します。同様に右下部のプレビューを選択し、「PNG-24」形式を選択します。

②プレビューで画像の品質や色、データサイズなどを確認しながら、保存したいファイル形式のプレビューを選択し「保存」をクリックします。

③ダイアログボックスを下記のように設定し「保存」をクリックします。



※WEBページを構成するファイルの名称は全て「半角英数字+ データの拡張子」にしないではいけません。また、ファイル名には記号やスペースは原則使用することはできません。間を空けてファイル名を見やすくする場合は「_」(アンダーバー)を使用します。

